

韓国大学生訪日団第1～4団（招へいプログラム）の記録 （対象国：韓国，テーマ：日本の伝統・文化と地方活性化を探る）

1. プログラム概要

韓国全土から選抜された大学生等が、6月27日から7月6日までの9泊10日の日程で来日し、テーマ「日本の伝統・文化と地方活性化を探る」のもと、対日理解を深めました。

一行は、都内で講義「世界に誇る日本の中小企業 技術・文化と社会的要請への対応」を聴講し、江戸東京博物館視察、文化体験、学校訪問を行った後、愛知県と和歌山県でホームステイ、学校訪問、文化体験、視察等を行いました。

日本の地方活性化の取り組みや技術、伝統文化や生活に根付いた文化に強い関心を示し、各々の体験や感想についてSNSを通じて対外発信を行いました。また、帰国前の報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プランを発表しました。

【訪問地】

東京都，神奈川県，愛知県，京都府，和歌山県，大阪府

2. 日程

6月27日（火）

成田国際空港から入国，【視察】江戸東京博物館

6月28日（水）

【講義】世界に誇る日本の中小企業 技術・文化と社会的要請への対応

【文化体験】1・2団：風鈴絵付け体験，3・4団：浴衣着付け，茶道

6月29日（木）

【学校訪問】1・2団：フェリス女学院大学，3・4団：東洋大学

6月30日（金）

1・2団：愛知県へ移動，【表敬・交流】稲沢市役所，【視察】国府宮神社

3・4団：和歌山県へ移動，【視察】熊野那智大社，那智の滝，那智山青岸渡寺

7月1日（土）

1・2団：【企業訪問】トヨタ産業技術記念館，【視察】名古屋城，

【文化体験】華道，【交流】ホームステイ対面式（稲沢市）

3・4団：【視察・体験】串本海中水族館，海中展望台，

【交流】ホームステイ対面式（白浜町）

7月2日（日）

ホームステイ

7月3日（月）

1・2 団：【学校訪問】中京大学

3・4 団：【文化体験】紀州備長炭風鈴作り，【企業訪問】クオリティソフト株式会社

7月4日（火）

1・2 団：京都府へ移動，【文化体験】浴衣着付け，石臼抹茶作り

3・4 団：【大学訪問】和歌山大学

7月5日（水）

【文化体験】能楽，成果報告会

1・2 団：大阪湾クルーズ，【文化体験】和太鼓

3・4 団：大阪府へ移動，【視察】大阪城，【文化体験】和紙はがき作り

7月6日（木）

関西国際空港から帰国

3. プログラム記録写真

（第1，2 団）



6月28日【講義】世界に誇る日本の中小企業：技術・文化と社会的要請への対応
（東京都港区）



6月30日【文化体験】風鈴絵付け
（東京都江戸川区）



6月29日【学校訪問】
フェリス女学院大学（神奈川県横浜市）



6月30日【表敬訪問】稲沢市役所（愛知県稲沢市）



7月1日【視察】トヨタ産業技術記念館
（愛知県名古屋市）



7月1日【交流】ホームステイ対面式（愛知県稲沢市）



7月3日【学校訪問】中京大学（愛知県名古屋市）



7月4日【文化体験】浴衣着付け（京都府宇治市）



7月4日【文化体験】茶道（京都府宇治市）



7月5日【文化体験】和太鼓
（大阪府大阪市）

（第3・4団）



6月27日【視察】江戸東京博物館
（東京都墨田区）



6月28日【文化体験】浴衣着付け，茶道
（東京都台東区）



6月29日【学校訪問】東洋大学
（東京都文京区）



6月30日【文化遺産視察】熊野那智大社、
那智の滝（和歌山県東牟婁郡）

| | |
|--|---|
|  |  |
| <p>7月1日【交流】ホームステイ対面式 (和歌山県西牟婁郡)</p> | <p>7月3日【視察】クオリティソフト株式会社 (和歌山県西牟婁郡)</p> |
|  |  |
| <p>7月4日【交流】和歌山大学 (和歌山県和歌山市)</p> | <p>7月5日【文化体験】和紙はがき作り (大阪府東大阪市)</p> |

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ 韓国 大学生

・訪日を通じて日本という国と国民について、より正確に理解する機会を得ることができた。何よりも意義深かったのは単純な知識の伝達ではなく、日本人との感情の共有ができたことだ。これを通じて親近感も感じ、これからの関係についても考えるようになった。

◆ 韓国 大学生

・訪日前は日本に関心がなく歴史問題にのみ関心があった。しかし、訪日後、さまざまな日本の大学生と出会い話をしながら韓国の文化と日本の文化の違いを大きく感じることになり、これからもお互いにいいところは受け入れ、関係を良くしていかなければならないと思った。

◆ 韓国 大学生

・訪日前は、日韓の関係は互いにいがみ合い、ライバル関係にあると思っていた。しかし今回、日韓両国が互いに協力しながら運営している企業の視察や学校訪問で出会った日本

の若者を通じて、両国は互いに協力していかなければならない間柄なのだと感じるようになった。

◆ 韓国 大学生

・大学で日語日文学を専攻しているが、勉強が難しく興味を失いかけていた。今回の訪日経験を通じて、日本語ができないことや日本についてよく知らないことが恥ずかしいのではなく、知らないと避けてばかりいたことが恥ずかしいことなのだと悟った。もっと多くの日本人と交流を深めるため、日本について一生懸命学ぼうと決意した。

5. 受入れ側の感想

◆ 訪問校交流会参加学生

実際に交流会が始まると、お互いに臆することなく、コミュニケーションをとることが出来たように思う。それぞれが違ったバックグラウンドを持ちながら、共通点を見つけあい、仲良くなれたのは非常に有意義な時間であった。

◆ ホームステイ受け入れ機関

団員の皆さんが素晴らしく、今までで一番良い交流ができた。文化や風習に多少の違いはあるけれども、地球は一つということを今回の交流で実感することができた。ホームステイ事業を通じて、少しでも多くの方に日本を理解していただくとともに、日韓友好の一助になれたらと思う。

◆ 訪問企業関係者

若い大学生の時期から日韓交流を始めるのはとても重要なことだと思う。韓国と協力しながら開発を進めている弊社に、日本に関心を持っている皆さんが訪問してくれたことは大変喜ばしく貴重な時間となった。

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表



10 日間の日程での各種視察やホームステイを通じての成果及び帰国後のアクション・プランについて発表した。日本語学習を始めたいという団員や日本で就職をしたいといった内容があった。



本プログラムでの経験を動画にまとめて発信・広報したいという声が複数上がった。また、交換留学生としての再来日を見据え、日本語学習に意欲を見せる団員も若干名見受けられた。